

HOPE



新しい体制とともに新しい病院づくりが始まります 市立芦屋病院 病院長 金山 良男



新年度から芦屋病院が大きく変わります。まず、病棟の建て替え工事がいよいよ始まります。診療業務を継続しながらの複雑な工程となりますが、ご利用の市民の皆様や先生方にご不便をおかけしないよう、診療への影響を最小限に止めるよう留意しつつ安全第一に作業を進めます。平成24年4月には芦屋にふさわしい快適で機能的な、地球環境にも配慮した新病院が誕生します。ご期待ください。なお、新病院には緩和ケア病棟の新設など新しい設備も盛り込まれている一方、現在の診療機能は全て移行しますが、産科につきましては、工事期間中は県立西宮病院とのネットワークを組み万全を期することとしています。診療体制も大きく変わります。新たに西浦診療局長（血液内科）、木村産婦人科部長が就任し、更に消化器・肝臓専門医として北田内科主任

任医長が着任します。それぞれの得意分野につきましては記事をご参照ください。

すでに昨年度後半には白鹿部長（血液、総合内科）、森山麻酔科医員が着任しておりますし、少し先になりますが消化器内科・内視鏡専門医の人事も決定しています。また、白鹿部長を中心に、芦屋ならではの国際外来を立ち上げます。さらに、若手医師（初期研修医、後期研修医）も増員されますので、現場の活気も向上することでしょう。ただ、残念ながら眼科常勤医につきまして常勤継続できない止むを得ない事情が生じ非常勤体制となりました。ご了承ください。

なお、診療面では、今年度からDPC（診断群分類包括評価）を適応します。DPCにより適切な医療を効率よく実施することが可能となり、病院の運営にも効果が期待できます。若干の診療に関する手順や費用計算に変更が生じますが十分なお案内をいたします。このところとかく暗い話題に終始してきた医療界ですが、芦屋病院に限っては明るい展望が開けてきたように感じられます。新しいスタッフを迎え、文字通り新しい病院作りに邁進してゆく所存です。

診療局長 着任ごあいさつ

にしうら てつお
診療局長 西浦 哲雄



このたび兵庫県立西宮病院から市立芦屋病院診療局長に赴任しました、内科の西浦哲雄です。

私は昭和56年大阪大学医学部を卒業し、臨床研修修了後大阪大学第二内科血液研究室に入局しました。金山院長は当時の研究室の大先輩で、それこそ研究、臨床のいろはから教えていただきました。血液腫瘍学を専門とし造血器悪性疾患の化学療法や造血幹細胞移植を中心に金山先生のもとで学び、平成13年6月広島県の国立病院呉医療センター血液腫瘍内科の医長として赴任しました。大学時代の経験を生かし、呉では血液疾患の化学療法から移植医療まで数多くの症例を経験できました。しかし呉でのがんセンターの臨床経験から、わが国のがん治療の問題点としての内科

腫瘍医の育成、緩和医療の普及などの必要性を痛感させられました。このような中でたまたま空席となった緩和病棟の病棟医長を兼任することとなり、私自身が緩和医療の普及に努めなければならなくなりました。当時呉医療センター一院長として赴任され現在の芦屋病院の事業管理者である佐治先生の強力なリーダーシップの下で血液の臨床だけでなく緩和医療の充実にむけ思う存分の仕事をさせていただきました。その後、平成19年兵庫県立西宮病院に移り、約2年間血液内科部長としての仕事とともに、緩和ケアチームの運営に努めてきました。このたびお二人の大先輩の下で再び仕事をさせていただくことになりました。現在公立病院のおかれている環境は非常に厳しい状況にあります。しかし市立芦屋病院は公立病院の中では最も早く腫瘍内科を設立し、さらに病棟改築とともに緩和ケアも設立されると聞いております。私のこれまでの経験が病院の改革に少しでもお役に立つようにがんばりたいと思います。皆さんよろしくお願ひ申し上げます。

看護局長 着任ごあいさつ

看護局長 おんだ 恩田 ともこ 朋子

4月より新しく看護局長を務めさせていただき恩田と申します。

医療機関を取り巻く環境は大きく変化していますが、芦屋病院においても3月に病院機能評価 Ver.6.0を受審、4月よりDPC対象病院となり、平成24年オープンに向けた建て替え工事が始まります。看護職員は、最も患者さんのおそばにいて信頼と専門性を発揮したいと考えております。そのために看護局は「患者中心の安全で良質な医療の提供」を基本理念として、安全で質の高い看護を目指して取り組んでいます。患者さんを中心としたチーム医療の推進、専門性の高い認定・専門看護師の育成を中心としたキャリア支援、地域活動の拡大、「手厚い看護」を実践するための7対1看護体制の維持など、市民の方に満足していただける医療、看護を提供することが不可欠だといえます。そのためにも関連部門との円滑な協力関係を築くことや地域医療機関・福祉施設等との連携を深め継続看護がスムーズに実践できることが重要です。今後も地域の中核として市民の皆様信頼される病院としての役割を担いたいと考えています。看護局長として、看護局の「患者中心の看護」という理念を基軸に、倫理観と人間性を高め確かな技術に裏付けされ、自信と誇りを持った看護職員を育成したいと考えています。

今後も地域住民の皆様信頼と期待に応えられるよう、そして安心して生活していただける看護を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

新任Dr.紹介



産婦人科 木村 俊夫

4月から産婦人科に勤務させていただきます木村俊夫と申します。昭和62年、奈良県立医科大学を卒業し、同年7月、大阪大学医学部産婦人科に入局し、以来、約20年間、産婦人科診療に従事していましたが、最近3年間は大阪中央病院の泌尿器科（女性泌尿器が主です）で勤務してきました。これは、産婦人科には泌尿器科的な症状で受診される患者さんも多いことから、一般的な産婦人科疾患だけでなく女性泌尿器疾患も診ることができるようにと考えたからです。市立芦屋病院では、今まで習得した産婦人科の知識や技術などに加えて、中高年女性によく見られる尿失禁や骨盤臓器脱などの最新の治療も行いたいと考えています。この病院でできる範囲のことを模索しながら、一から始めさせていただきたいと考えております。



内科 白鹿 正通

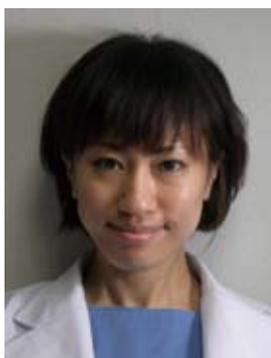
2009年10月1日より市立芦屋病院内科に就任しました白鹿(しらが)と申します。出身は島根県で、松江南高校卒業、昭和63年に大阪大学医学部を卒業してから、あっという間に21年以上の月日が経過してしまいました。専門は血液内科ですが、可能な範囲で内科全般の診療に携わっております。

私が当院で診療を始めて半年が経ちましたが、この芦屋病院は、“安全で良質な医療の提供”を基本理念としているだけあって、医療も安全管理についても高いレベルを保つだけでなく、絶えず向上しようという取り組みをしている病院であるということを私は実感しています。急激に変化する医療情勢の中、私も芦屋病院のスタッフの一人として安全で良質な医療サービスを提供することで社会に貢献するよう努力していこうと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



内科 北田 学利

平成22年4月1日付で市立伊丹病院より当院消化器内科に着任いたしました。
 専門は消化器で、特に早期肝臓の治療と苦痛を伴わない快適な大腸内視鏡検査を提供し早期大腸癌の診断治療を行うことです。大阪大学附属病院、りんくう総合医療センター市立泉佐野病院、前医での経験を活かし、早期肝臓に対するRFA治療(ラジオ波焼灼熱凝固療法)の局所再発率は、最新の機器を駆使し自験例で5%程度(全国的には10~15%程度)にまで抑えることができています(2005アメリカ肝臓学会報告、2008英文報告)。また、快適な大腸内視鏡検査を心がけており、前病院ではここ3年で検査数が約1200件から約1800件と1.5倍に増加。この4月には、東京の京王プラザホテルで、大腸内視鏡挿入の講演もさせていただくことになりました。早期大腸癌の場合、開腹手術を行うことなく大腸内視鏡検査中に切除が可能です。肝炎、肝臓でお悩みの方、便秘、下痢、便潜血陽性の方、できるだけ早期に受診していただけることを望みます。患者様に質の高い医療を提供できるよう、精進していく所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



麻酔科 森山 直美

平成22年1月1日付けで、中谷整形外科病院より当院麻酔科に着任いたしました森山直美です。平成11年に兵庫医科大学を卒業し、同大学病院麻酔科で2年間の臨床研修後、甲南病院、兵庫医科大学病院、三田市民病院、中谷整形外科病院の勤務を経て現在に至ります。麻酔科医の仕事は、リスクや時間帯に関わらず、手術の麻酔を安全でかつ良質に提供できる、また外科医とコミュニケーションをとりスタッフと協調性を保つ「究極の縁の下の力持ち」と考えます。患者様の痛みや不安をとり、こわくない手術を目指して、日々頑張ります。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



内科 松尾 俊宏

本年4月1日付けで宝塚市立病院より当院内科へ着任いたしました松尾です。
 平成18年、兵庫医科大学を卒業し市立芦屋病院で臨床研修を行いました。その後に兵庫医科大学糖尿病科に入局し、平成21年からは宝塚市立病院で内科診療を行っていました。糖尿病は血糖値の高い病気と認識しがちですが、ほおっておけば合併症を引き起こす病気です。健診などで尿糖が陽性であった、空腹時の血糖値が正常値よりやや高かったなどの初期の異常があればいつでもご相談ください。
 的確かつ満足して頂けるような診療や治療を心がけたいと思いますのでよろしくお願ひ申し上げます。

市立芦屋病院では4月に多くの新しい医師を迎えると同時に、医療の質の向上の為今年度から「医療安全推進室」「医療機器管理室」「診療情報管理室」といった新しい組織を設置しました。また、地域連携室の体制強化も図り、より地域の皆様に積極的に利用していただける病院になるよう本年度も引き続き取り組んで参ります。



市立芦屋病院の基本理念

・生命の尊厳を基本とし、安全で良質な医療を提供します。・芦屋市の中核病院として、地域社会に貢献します。

市立芦屋病院の経営理念

信頼され選ばれる市民病院をめざして

患者の権利

1. あなたにとって最も有益で望ましい医療を受けることができます。
2. あなたの症状、治療、見直しなどについて十分な説明と情報を受けることができます。
3. あなたは十分な説明を受けた上で治療方針を自らの意思で選択し、または拒否することができます。
 但し、関係する治療法で当院において設備上または技術上不可能な場合は医師があらかじめお知らせします。
4. あなたは不明な点について、何ら不利益を蒙ることなく院外の第三者に意見を求めることができます。
5. 診療上知り得たあなた自身の個人情報、あなたの医療以外の目的で使用されることはありません。

平成22年4月1日より

入院医療費の計算方法が変わります。

Diagnosis
Procedure
Combination
||
診断群分類

当院は、平成22年4月1日から厚生労働省が定めたDPC（診断群分類別定額払い）方式による新たな計算方式になります。

これまでの計算方法は、診療行為ごとの料金を合算して医療費を出す「出来高払い方式」でした。

新たな計算方式では、病気の種類、手術（処置）の施行の有無、合併する病気の有無等によって病気を分類し、その分類ごとに1日当たりの包括診療部分の医療費が決まる「DPC方式」となります。医療費は包括部分と出来高部分を合わせたものになります。

DPC方式のイメージ図

従来の計算（出来高方式）

入院基本料

+

投薬、注射、処置

+

検 査

+

X 線

+

手術、リハビリ、内視鏡
指導管理料、食事
個室料など

DPC方式による計算

包括部分

- ・入院基本料
- ・投薬、注射、処置（1000点未満）
- ・検 査
- ・X 線 など
- ・一日あたり定額 × 日数

+

出来高部分

手術、リハビリ、内視鏡
指導管理料、個室料
1000点以上の処置、退院時処方 など

平成22年
4月1日より

平成22年4月1日以降に入院されるかた
が対象となります。（一部例外があります。）

DPC方式・入院医療費についての Q & A

Q1) どうしてDPC方式にするのですか？

A1) DPCによる医療費制度は、計算方法の変更だけでなく、医療の標準化と質の向上を目指してできた制度です。当院も厚生労働省の事前調査に協力し、「DPC対象病院」として許可され、平成22年4月からDPC方式となります。

Q2) すべての入院患者がこの制度の適用となるのですか？

主治医が入院患者の病名や診療内容によって診断群分類のいずれかに該当すると判断した場合に、DPC方式で医療費を計算します。病名が診断群分類のいずれにも該当しない場合や下記のような場合には、従来の計算方法（出来高方式）となります。

A2)

- 交通事故や労働災害等の自由診療で入院される方
- 分類に該当しない病名や診療内容で入院される方
- 公害医療で入院される方
- お産等の自費診療で入院される方
- 亜急性病室へ入院される方
- 治験で入院される方
- 入院後24時間以内に亡くなられた方
- 「包括評価方式(DPC)」による入院期間を超えて入院されている方 など

Q3) DPCの対象となる病気でも出来高方式で計算してもらえますか？

A3) 厚生労働省の定めにより、DPCの対象となる病気は出来高方式での計算ができません。

Q4) DPCに変わっても治療はかわりませんか？

A4) DPC方式は、一つの病名に対して入院診療を行うことを前提とした制度です。そのため、主治医の判断（緊急度等）により、入院中に必ずしも行わなくてもよい医療行為は、退院後などに診療を受けていただく場合があります。

Q5) 出来高方式と比べて、入院医療費は高くなるのですか？

A5) DPCでは入院している間の病名や行った手術等によって、1日当たりの金額が決まります。従って出来高方式と比べて病名により、高くなる場合もあれば、安くなる場合もあります。また入院された日数によっても、1日当たりの金額が変わる仕組みになっています。

Q6) 入院途中で病名、診療科が変わった場合の入院医療費はどうなる？

A6) 入院当初の病名から、入院後の治療や検査で病名が変わるなど、分類が変わった場合は、入院日に遡って医療費の計算をやり直します。この場合、次回請求額などで過不足を調整させていただきますので、予めご了承ください。

Q7) 高額医療費の取扱いはどうなりますか？

A7) 高額医療費制度の取扱いに関しては、これまでと変わりません。

不明な点がございましたら、
外来棟4階総合窓口にてお気軽にお尋ねください。
皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



市立芦屋病院・県立西宮病院 周産期ネットワークのお知らせ

平成22年4月から市立芦屋病院では県立西宮病院との間の周産期ネットワークを発足させます。医療資源を集約化して、市民により良い医療を提供するための試みて、当面市立芦屋病院建て替え工事期間の2年間を目処に行います。

市立芦屋病院・県立西宮病院周産期ネットワークとは

市立芦屋病院・県立西宮病院周産期ネットワークとは、「普通の妊婦健診は近くの市立芦屋病院で、お産は県立西宮病院で」というシステムです。外来診察待ち時間の少ない市立芦屋病院（健診施設）で妊婦健診を行い、周産期医療のスタッフがそろった県立西宮病院で、安心して安全な出産をしていただきます。

分娩後、産褥期にご希望に応じて、市立芦屋病院に転院し、療養することも可能です。



● 周産期ネットワークにおける妊婦健診の流れ

妊娠前期および中期の妊婦健診は基本的に市立芦屋病院で行いますが、県立西宮病院で分娩予定の方は、妊娠10週以降に市立芦屋病院から県立西宮病院へ分娩予約をいたします。なお県立西宮病院以外で分娩予定の方は、各自で分娩施設へ予約をしていただきます。健診時にリスクが高いと判断された場合は、以後の管理は分娩施設で行うこととなります。健診結果や検査結果は「マタニティ・ネット・ブック（市立芦屋病院・県立西宮病院周産期ネットワーク共通診療ノート）」に記入しますので、妊婦は母子手帳とともにこの「ネット・ブック」を携帯し、診察時に提出していただくと、患者情報が診療記録（カルテ）と同様に診察医へ伝わる仕組みになっています。

妊娠36週の健診と分娩は原則的に分娩施設で管理します。産褥期は市立芦屋病院へ転院して療養することが出来ますので、助産師による充実したケア、指導を受けられます。産褥期の入院は県立西宮病院以外で分娩された方も受け入れます。また市立芦屋病院では、産後の乳房ケアや育児指導のために、当院入院以外の方も含めて、「おっぱい相談室」を設けています。気軽にご利用下さい。妊娠36週までの妊婦さんで、夜間休日等の緊急時には、かかりつけの市立芦屋病院に連絡すれば、対応を指示いたします。

詳細については市立芦屋病院総務課までお問い合わせ下さい。



市立芦屋病院 総務課 TEL 0797-31-2156(代表)

第22回 芦屋さくらまつりに 芦屋病院が参加します!!

今年も昨年に引き続き芦屋さくらまつりに参加します。
今年好評の米粉パンケーキに加え、おいしい『ゆず茶』
もメニューに加えました。
ぜひたくさんのご来場をお待ちしています。



日時

平成22年4月3日(土)・4月4日(日)
午前11時～午後8時

場所

市民センター西側 業平さくら通り

4月

院内の催し各教室のご案内

芦屋病院マチネーコンサート

テーマ『花・華・そして愛』

日時：4月11日(日) 14時30分～15時30分

場所：外来棟5階ホール

出演：保坂博光(テノール)・金澤佳代子(ピアノ)

問い合わせ：地域連携室

入場無料です



両親教室

テーマ「お産の経過・あかちゃんのお風呂」

日時：4月10日(土) 午前10時～12時

場所：南病棟1階講義室

対象：妊娠22週以降の妊婦さんとパートナー

問い合わせ：産婦人科外来(電話は13時以降)



市民ギャラリー

テーマ 延原 秀昭『芦屋・六甲山の野鳥写真展』

日時：4月1日～4月30日

場所：5階渡り廊下展示ギャラリー

問い合わせ：地域連携室



病院公開講座

テーマ「市立芦屋病院の未来 Part2」

日時：4月17日(土) 午後2時～3時30分

場所：芦屋市民センター 401号室

講師：市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

受講料：200円

問い合わせ：公民館 Tel 0797-35-0700

糖尿病教室

テーマ「糖尿病の治療について」

日時：4月9日(金) 午後1時30分～午後3時

場所：南病棟1階講義室

問い合わせ：栄養管理室



よろず相談

毎週火曜日・金曜日午前10時～12時まで市役所北館
1階において芦屋病院の看護師が医療よろず相談を
行っています。料金は無料です。気軽にお越し下さい。

事業管理者のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

◆ 患者の気持ち ◆

昨年末から今年の初めにかけて、消化管の内視鏡検査を受ける機会がありました。胃の内視鏡検査は30数年ぶり、大腸内視鏡検査にいたっては生まれて初めての経験でした(紺屋の白袴?)。どちらも決して楽な検査ではありませんでした。最近では経鼻内視鏡で胃の検査も楽になったようですが、私は従来からの経口内視鏡を選択したので、検査時に嘔気(はきけ)が結構ありました。一方、大腸内視鏡では検査そのものはほとんど苦痛がないのですが、洗腸といって文字通り腸を空っぽにするための前処置が大変でした。下剤の大量服用で、宿便が取れてきれいになるのはいいのですが、トイレに出たり入ったりの繰り返しには参りました。

私たちは、病院の職員によく「患者の身になって」とか「患者の気持ちを考えて」等を連発しています。しかし、私たちが簡単に「じゃあ、内視鏡検査をしておきましょう」と言った結果、言われた患者が結構苦しい思いをしていることに思い至っていないのは、私の例を見ても明らかです。もちろん、正しい診断のためには辛い検査であっても受けなければなりません。ただ、検査ひとつとっても、その経験がなければなかなか患者の気持ちになることは困難です。まして実際に患者になって、手術や治療を受けたことが無い医療者に、患者の気持ちを本当に理解するのは大変です。悟りを開いたはずの高僧が不治の病を宣告された途端にパニックに陥ったなど、日頃十分理解していると思われる人間でも、自分がその立場になるとそうでないことが往々にして露呈します。

ところで、市立芦屋病院の職員の中には、種々の病気の経験者が少なからずいることをご存じですか。乳がん、肺がん、胃がん、大腸がんなど悪性腫瘍の克服者や心臓外科で手術を受けた経験者、糖尿病など慢性疾患の罹患者もいます。患者の痛みを知る医療従事者の存在は、私たちの病院にとって財産でもあります。しかも診療の第一線で指揮をとる病院長ががん経験者であることを公表し、がん患者にエールを送っている病院は数少ないと思います。金山良男病院長は、「がん診療医のがん体験記『がん恐るるに足らず』」のタイトルで、患者へのメッセージを述べています。(Oncology Epoch 08 Summer'09) 文中、宮沢賢治の「疾中詩篇」を引用しつつ、自身の経験から「がんは死と結びついて語られることが多いが、早期発見という条件さえ整えば、むしろ他の疾病に比べて対処しやすくなっている。また、たとえ進行がんの状況に陥っても、現在は疼痛緩和の手段が整っていて、この面でもがんを特別扱いする理由はない」と。

病院長以下、患者の気持ちを知り、患者と同調できる医療従事者がいる市立芦屋病院は、これからも患者本位の医療を充実させていきます。

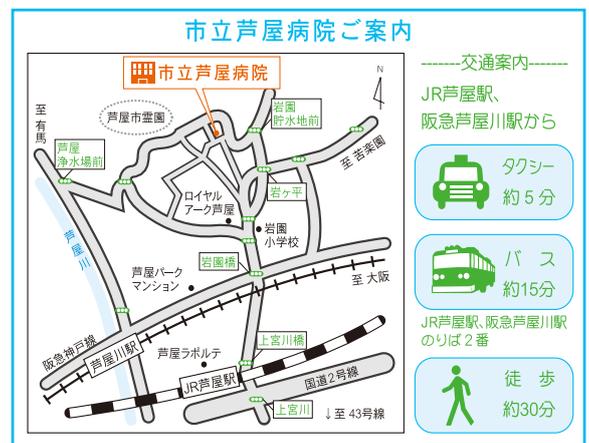
事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

平成22年4月から病院建替に伴う工事に着手します。しばらくご不便をおかけしますが、外来・入院ともに工事期間中も平常通り診療を行いますのでご安心ください。工事に関するお知らせは随時ホームページ等に掲載する予定です。



<http://www.ashiya-hosp.com>

市立芦屋病院についてのさらに詳しい情報については、ホームページをご覧ください。



市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822
ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>